



18.DEC.2025  
**12月18日号**  
通巻102号

■発行所／(株) びゅ〜すまいる編集舗・みまもり未来プレス編集部  
■2025年12月18日発行号 ■発行者・編集人／八木澤 晃 ■毎月第3木曜日発行

東急リゾート&ステイ

<https://www.tokyu-land.co.jp/wellness/resort/niseko.html>

## ニセコの新レストランに AIセルフレジ導入

～国際リゾートで進む“省人化×体験価値向上”の実証実験～



ノーを求めて訪れる観光客に加え、四季を通じて自然や文化を楽しめる国際的リゾートとして発展してきた。一方で、観光地特有の人手不足や、混雑時のサービス品質維持は大きな課題となっている。こうした背景から、グラン・ヒラフではテクノロジーの活用による省人化と快適性向上を両立する「スマートリゾート化」を進めている。

業務負荷軽減にも寄与する点が特徴だ。スタッフは接客や空間演出など、より付加価値の高い業務に専念できるようになる。実証実験では、来場者の利用状況やフィードバックをもとに、UIや運用面の改善を重ねていく。単なる省人化にとどまらず、「ストレスなく過ごせる食事体験」を実現する新しいおもてなしの形を模索する。

『Value up NISEKO 2030』が描く  
スマートリゾートの未来

オールシーズン型マウンテンリゾート『ニセコ東急 グラン・ヒラフ』に、AI技術を活用した次世代型セルフレジが導入される。東急不動産と東急リゾート&ステイ、ファインダーズAIジャパンは、2025年12月に開業する新レストラン『NEST813』において、画像認識AIセルフレジ『VISION CHECK-OUT』を用いた実証実験を開始する。

本取り組みは、東急不動産が進める『Value up NISEKO 2030』プロジェクトの一環であり、先進技術を活用したサービス向上と、国際的リゾートとしての利便性・体験価値の強化を目的としている。

ニセコエリアは、世界中からパウダース

### 商品を置くだけで精算 次世代AIセルフレジの仕組み

今回導入される『VISION CHECK-OUT』は、360度から商品を認識する日本初の画像認識AIセルフレジである。バーコードやRFIDによる読み取りは不要で、商品を台に置くだけで、複数台のカメラが瞬時に品目を判別する。高精度なAI画像認識により、約99%以上の確度で商品を識別し、決済はおよそ10秒で完了する。操作は直感的で、セルフレジに不慣れな来場者でも利用しやすい設計となっている。混雑時の待ち時間短縮に加え、従業員の

『Value up NISEKO 2030』は、2030年に向けて持続可能で選ばれ続ける国際リゾートを目指すプロジェクトである。行政や地元企業と連携し、ハード整備とソフト施策の両面から地域価値の向上に取り組んできた。索道更新やオールシーズン化に加え、NFTを活用したスキー体験、積雪を活かした発電事業など、先進的な試みも進められている。

今回のAIセルフレジ導入もその延長線上にある。人手不足という課題への対応と同時に、来場者一人ひとりが快適に過ごせる環境づくりを進めることで、ニセコは「アジアNo.1の国際的リゾート」を目指す。テクノロジーを裏方として活かし、人が本来担うべき価値を高める。

シニアが元気になると  
日本が元気になる！

元気シニア倶楽部  
会員募集中!!

— 入会費・年会費なし —

一般社団法人

日本元気シニア総研

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 4-4-5 第3伊藤ビル4階  
tel.050-5533-3100 fax.03-5791-5859 Email. info@genkisenior.com



# 秩父市、ドローン活用で地域課題解決へ

—— KDDI スマートドローンらと連携協定を締結 ——



本協定の締結の様子：左より、清野和彦秩父市長、KDDI スマートドローン 博野 雅文社長、ちちぶ結いまち 深田 雅之代表理事

埼玉県秩父市は、KDDI スマートドローン（東京都千代田区）および一般社団法人ちちぶ結いまち（埼玉県秩父市）と、ドローンを活用した地域活性化を目的とする連携協定を2025年12月15日に締結した。本協定は、平時・災害時を問わずドローンを活用する「フェーズフリー」の考え方を取り入れ、安全で持続可能な地域インフラの構築を目指すものである。

三者は、ドローンを地域社会に実装することで、市民サービスの向上や地域課題の解決、さらには新たな産業や人材の創出につなげていく方

針だ。秩父市の地理特性である山間地域を活かしつつ、先進技術を用いた安心・安全なまちづくりを推進していく。

## 見守り・防災・獣害対策まで広がるドローン活用

本協定の柱の一つが、ドローンポートの設置と運用である。自動離着陸や充電が可能な拠点を市内に整備することで、地域の見守り、山林火災の早期発見、不法投棄の監視、シカやイノシシ、クマといった獣害対策など、幅広い分野での活用を想

定している。平時から運用することで、有事にも即応できる体制づくりを目指す。

## 人材育成と物流改革で持続可能な地域へ

あわせて、ちちぶ結いまちを運営主体とした「KDDI スマートドローンアカデミー秩父校」を開校し、国家資格取得を含む操縦者育成を行う。地域内でドローンを安全に運用できる人材を育てることで、技術の定着と雇用創出につなげる狙いだ。

さらに、山間部のラストワンマイル物流を見据えたドローン配送の定常運航も検討する。三者は連携を深めながら、ドローンを地域インフラの一部として根付かせ、秩父市ならではの持続可能な地域モデルの構築を進めていく。



<設置予定機体 Skydio Dock for X10 >

<https://kddi.smartdrone.co.jp/>

アイデアの**商品化**を推進する  
身近な**ヒント** **発明展**®

特許料  
3億円!

アイデア  
募集中

特許料  
6千万円!

発明家たちの  
登竜門

企業の  
新製品  
開発に



小さな創造を社会に活かす  
一般社団法人 **発明学会**

<https://www.hatsumei.or.jp/>



# こちら『元気シニアビジネスアドバイザー!!!』

ブレン・モンジュ・林野 均の「シニア`萬、遊記」第99回

## 高齢者の金銭管理を国が代行？

このコーナーでも何度か書いていますが、一人暮らしの高齢者が増えています。たとえ一人暮らしでなくても高齢社同士で住んでいる場合は金銭管理やいざという時、例えば入院手続きや死後事務などの対応に不安があります。有料の高齢者向けの終身サポート事業者も増えているようですが、契約時に高額の前払い金が必要なことも多く、また履行を確認する仕組みも現在はありません。

だれでも利用できるわけでもありませんし、トラブルも増えてきており、そんな状況を見て、厚労省も広く支援を受けられる公的な仕組みが必要と判断したようです。

厚労省の検討会によると、身寄りのない高齢者の日常生活支援、

入院や入所の手続き、死後事務を提供する事業を、社会福祉法人の「第2種社会福祉事業」に位置づけるとされたようです。2種事業はNPOや民間業者も参入でき、現在その一つに、判断能力に不安がある人を対象に福祉サービス利用援助事業があります。全国の社会福祉協議会が実施していますが、必ずしも十分ではありません。

厚労省が検討する新制度では、

その対象を身寄りのない高齢者に広げ、入院などの手続き、死後事務の支援も担うことを想定、入院時など生前の支援の利用料は、収入や資産に応じ、資力が乏しい人は低額とすることをめざしているようです。

ただ課題は多く、完璧な制度設計にはまだまだ時間がかかりそうです。それまでは元気に長生きしましょう。



\*画像はイメージです

Author／林野 均 (はやしの ひとし)

プランニング・ブレン・モンジュ代表／一般社団法人 日本元気シニア総研究委員

『元気シニアビジネスアドバイザー』資格を取得後、元気シニア総研究委員として、シニア向け商品やサービスの取材を「自らのシニア目線」で精力的に行なっている。

<https://planningbrain.com>



## デイサービス生活相談員ネットワークの『生活相談員』講座

ちっちゃいマメをおっきく育て、  
夢のある未来を創造します。

株式会社スリービーンズ

<http://3beans.jp>

*Let's enjoy your senior life*

元気なシニアライフを  
応援します！

<https://planningbrain.com>

シニアのためのコンシェルジュ

プランニング・ブレン・モンジュ

tel.090-3682-3310



## 免許返納後の移動不安を軽減 シェアサイクル「チャリチャリ」、高齢者向け実証実験に参画

シェアサイクルサービス『チャリチャリ』を運営するチャリチャリ(福岡市中央区)は、高齢者の免許返納を支援する「高齢者免許返納体験サポートサービス」の実証実験に参画する。

これは、セーフライド(福岡市中央区)が実施する取り組みで、免許返納を検討する高齢者が一定期間「車のない生活」を体験し、返納後の生活を具体的にイメージできる機会を提供するものだ。

高齢ドライバーによる交通事故が社会課題となる一方、日本における高齢者の免許返納率は約2%にとどまっている。車が生活の足となっている地域では、返納後の移動手段への不安が大きく、免許返納に踏み切れない高齢者が多いのが現状である。

### 「おためし車無し生活」で 移動の選択肢を可視化

本実証実験は、福岡市在住の高齢ドライバー約30名を対象に、2025年12月から2026年2月までの約3か月間実施される。参加者は期間中、車の利用を控え、公共交通機関やタクシー、生活支援サービスなどを組み合わせながら日常生活を送る。



チャリチャリはその一環として、参加者にライドチケットを提供する。自宅から最寄り駅までの移動や、近隣への買い物、散歩を兼ねた外出など、「ちょっとそこまで」の移動を自転車で体験してもらうことで、免許返納後の移動に対する心理的な不安を和らげる狙いがある。シェアサイクルは、運動機会の創出や外出促進にもつながり、健康面での効果も期待されている。

### シニアの見守りと 地域交通の持続可能性

チャリチャリはこれまで、老人福祉センターでの説明会や試乗会を通じ、シニア世代への利用促進を進めてきた。今回の実証では、免許返納後の生活におけるシェアサイクルの有効性を検証し、安心して移動できる地域交通の在

り方を探る。

超高齢社会を迎える日本において、免許返納は個人の問題にとどまらず、地域全体の安全と持続可能性に直結するテーマである。チャリチャリとセーフライドは、福岡発のスタートアップとして連携し、高齢者が無理なく、前向きに免許返納を選択できる社会づくりを目指す。今回の実証を通じて得られる知見は、今後、全国各地での高齢者見守りや移動支援モデルの構築にも生かされていく見通しだ



© Charichar ではポートオーナーも募集している



[www.flanet.jp](http://www.flanet.jp)

「食」を真剣に考えるひとのための資格！

## 食生活アドバイザー®の 活躍のフィールドはとっても広い

- 生産、流通、販売などの現場で
- 医療、福祉などの現場で
- 飲食の現場で
- 学校、家庭などで

食生活アドバイザー

検索



フリーダイヤル 0120-86-3593 TEL 03-3371-3593



一般社団法人

FLAネットワーク協会 (Food & Lifestyle Adviser)

食生活アドバイザー® 検定事務局